

箱根駅伝の人気についての研究 —キーマンとなった選手に着目して—

鹿嶋 剛人 (競技スポーツ学科 スポーツビジネスコース)
指導教員 後藤 英文

キーワード：箱根駅伝，キーマン，山の神

1. 緒言

東京箱根間往復大学駅伝競走(以下箱根駅伝)は正月に行われる関東の大学トップ校を決める大会である。

大学の主要駅伝は三大駅伝と呼ばれ、10月の体育の日に行われる出雲全日本大学選抜駅伝競走、11月の第1日曜日に行われる全日本大学駅伝対校選手権大会(以下全日本大学駅伝)、そして箱根駅伝がそれにあたる。この三大駅伝を比較したときに、箱根駅伝だけが群を抜いて人気が高く、報道量も多い。

本研究は、箱根駅伝を彩ったスター選手の新聞での取り上げ方を中心に、箱根駅伝が人気になった理由を探る。また、優勝争いやシード権争い、途中棄権、脱水症状、繰り上げスタートなどのドラマ性にも着目する。そして、三大駅伝の新聞報道にどのような違いがあるのかを明らかにする。

2. 研究方法

1) 調査方法

インタビュー調査

自由回答形式で、箱根駅伝に関する質問を用意し、臨機応変に質問を追加していく。

紙面調査

インタビュー調査で挙げられたキーマンといわれる2選手の時代である1992年～1996年、2008年～2012年の紙面調査。

2) 調査対象者

全国紙陸上担当記者

スポーツ紙陸上担当記者

3) 調査時期

2016年8月～11月

3. 結果と考察

インタビュー調査の結果、箱根駅伝の人気上昇につながったキーマンとして「山の神」らが挙げられた。1987年に日本テレビで生中継されるようになったことが大きなステップになったが、その流れをキーマンが加速させたことが分かった。

紙面調査の結果、キーマンの時代である1992年～1996年、そして2008年～2012年の各5年間で紙面の大きさが変化していることが分かった。特にY新聞の1面記事では、写真の使用やキーマンの脇見出しなど大きく変化していた。全日本大学駅伝の報道に力を入れているA新聞でも、キーマンの登場により紙面の大きさに変化が見られ、注目度の高さが窺える結果となった。

4. まとめ

今回調査した2選手に共通する点は驚異的な走り。多くのプレッシャーを乗り越え4年間結果を出し続けた結果、箱根駅伝の人気をさらに高めた。そして、ごぼう抜きや繰り上げスタート、脱水症状に加え、20kmという距離、浜風や山の登り下りなどの箱根駅伝特有の条件が結果として多くのドラマを生み出す要因となっている。

引用・参考文献

A新聞 2012年1月3日朝刊

池田哲雄編(2012)箱根駅伝激闘の記憶。ベースボール・マガジン社：東京。

Y新聞 1992年1月3日朝刊

Y新聞 1996年1月3日朝刊